

平成 29 年度 第 2 回 木曾医療圏地域医療構想調整会議 議事録

日 時：平成 30 年 1 月 11 日（木）

15:30～17:20

場 所：木曾合同庁舎講堂

1 開 会
的場副所長

2 あいさつ
宮島所長

3 会議事項
進行：奥原会長

（1）新公立病院改革プラン（木曾病院第 2 期中期計画）について

<説明>資料 1 的場副所長

資料 1－2 木曾病院 井上院長、駒形事務部長

【井上委員（木曾病院長）】

木曾病院院長の井上でございます。旧年中は皆様にお世話になりありがとうございました。木曾郡唯一の病院として木曾地域の方に十分で安全安心な医療を提供するというので今年も頑張っていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

また、新聞等で見ますと木曾郡の人口 28,000 人を切ったとか高齢化率が 40%と非常に高くなったという報道があります。そういった中で高齢の方が安心して暮らせる状況を現状に即し、いろいろな形で行っていききたいと思っております。経営も大事ですので皆様木曾病院をご利用いただけるようよろしくお願いいたします。詳しくは事務部長からお話しさせていただきます。

<質疑、意見交換>

特になし

（2）地域医療介護総合確保基金について

<説明>資料 2 医療推進課 宮下担当係長

<質疑、意見交換>

【蘆澤委員】

（資料 2 にある）「総事業費」ほかを決定するのは誰なのかをお聞きしたい。また、木曾病院の事業として、資料にある事業費等で満足いくものなのかをお聞きしたい。

【医療推進課 宮下担当係長】

資料にある事業につきましては、県として予算化され、国から事業の目的が好ましくない等のものでない限りは、30 年度に採択されていくという方向です。総事業費は木曾病院からの数字であり、このうち 3 分の 1、2 分の 1 が支援されるというものです。

【蘆澤委員】

木曾病院としては（この資料の）事業費が満足できる額なのかというところはどうかですか。病院としての機能がこれから果たせるかどうかというところは。

【井上委員（木曾病院長）】

ご質問ありがとうございます。もちろんこの基金だけが病院の運営費ではありません。（この事業の内容等については）病院の中で練って、県にも御協力いただいて（国に）出しているということですので、私共としては非常にありがたいことです。また（病院の中）の状況を見ながら県の方とお話ししながら援助していただけるように議論を進めていきたいと思っております。これが全ての木曾病院の運営資金というわけではありませんし、（金額が）多ければ多いほど良いということはありませんけれど、それはそれでいろんな面で制約がある

と思いますので、こういった面で御援助いただければありがたいと考えています。

【奥原会長】

新しい体制による一種の補助金と考えていいわけですね？

【医療推進課 宮下担当係長】

ご要望いただいた事業が採択されれば、その内容のために使っていただくというものであります。

(3) 医療及び介護の体制整備に係る協議について

<説明>資料3 湯浅福祉課長

<質疑、意見交換>

【小林泰彦委員】

薬剤師会の小林と申します。(資料には)「体制整備に係る協議の場 設置、運営」と書かれていますが、この場合の「事務局」はどちらになるのでしょうか？

【湯浅福祉課長】

資料3にあるように「木曾保健福祉事務所」が担うこととなっています。

【小林泰彦委員】

この場合の「事務局」とは、このようなオフィシャルな会議の事務局のことだと思いますが、今回の「(医療と介護の)体制整備」は各職種と連携してやっていかなければいけないことだと思いますので、オフィシャルでない部分でも連携が必要となってきます。そういう場合の連携に関してもこちらの事務局でやっていただけるということでしょうか？

【湯浅福祉課長】

そのとおりであり、今回は他圏域と同様に数字的には大丈夫ということであったのですが、これから(年次が)進んでいくにつれてどんどん多方面と協議をしないと数字的に整合しなくなってくると思うので、その場合には、各町村、広域連合、各事業所含めて当方が事務局になって、出向いて調整をするという形になるかと思っています。

(4) 第2期信州信州保健医療総合計画(案)について

<説明>資料4 医療推進課 宮下担当係長

<質疑、意見交換>

【井口委員】

今まで出されたこと等もありますがよろしいでしょうか？

まず、木曾南部の人達に対するバス運行ですが、今までは12月までの試行ということでしたが、このたび延長してやっていただけることとなったようで非常にありがたく思います。続けていかなければいけないと感じます。

県でも一所懸命考えていただいています。最近新聞紙上等でも書かれている「医師の西高東低」で東の方に少ないという問題があります。大いに国に働きかけて解消するように頑張っていただきたい。医師の養成についても更に力を入れて医学生をたくさん出してほしいと思います。

在宅医療については、木曾は非常に(面積が)広く、地域の医師が高齢化する中で在宅医療が(将来的に維持)できていくのかという心配が私にはあります。その辺を十分に考慮して、計画してほしいと思います。

中津川市のことを考えると坂下病院はだんだん縮小せざるを得ないと思いますが、そうなった時に木曾南部の人たちの医療について長野県人として考えなければいけないと思います。その時に、木曾病院をさらに充実させることが非常に大事な手だと思っています。充実されることで、南の人達が「木曾病院に行きましょう」という話に当然なってくると思います。

ぜひ木曾病院を充実させてほしいと思います。

県では、がん、心疾患、脳疾患が多く、何とかしたいと言っているわけですから、そういった専門医を木曾病院に配置してもらえば、南の人達が訪れるようになるといったことも含めて良いのではないかと。出来たら実現してほしいと思っています。

10 医療圏を設定していただき木曾にとっては非常にありがたく、このまま維持してほしいと思います。

健康長寿を目的として一所懸命やるということは非常に賛成であります。私どもとしてもそれに沿って大いに頑張って「健康長寿日本一、世界一」という具合になっていけたらと思います。

【医療推進課 宮下担当係長】

医師確保の関係では、先ほど計画の概要案を説明して参りましたが、引き続き県のドクターバンク事業や新たな取組として、地域の中核的な役割を担う人材の拠点病院のようなところにまずは即戦力医師や研修医を集めて、そこから小規模の医療機関へ行けるように支援していくということを次期計画の中で考えていきます。

国の大きな動きとして、この間厚生労働省の有識者会議にも出されましたが、今後都道府県に医師確保計画を作らせるということであり、医師不足と言われていますが、実際の医師不足の状況を評価（検証？）し全国で比較できるような指標等も用意し、今後医師確保を図っていくよう法制化の方向もあるやに聞いていますので、そういった状況を見ながら地域の医療体制が充実するよう進めていければと思っています。

【唐澤委員】

木曾病院の病棟の再編成について、3月1日から具体的に始まっていくということですが、私たち理事者や関係者はそのことを十分にわかっており、国の医療改革の延長線で今まで長野県でも時間をかけてこういうことを作ってきているわけですが、このことを村民、郡民にはどのように伝えたら良いのかということです。大きく変わってしまうわけですよ。入院したくても出されてしまう。出されたら、在宅でやれということでしょうか？

私は事あるごとに、高齢者にそういう話をしていますが、たまたま2月から村内一斉に行政懇談会をやると思っていますので、年度内に（病棟再編が）出来てしまうわけですよ？村民は国の医療費の問題を大まかには分かっているかも知れないが、それを具体的に末端行政である町村が実際にはやっていかなければいけない、そのことを分からせるような話をしていかなければいけないと思っていますが、そのことは県がやっていくのでしょうか？専門的なチラシを作るとか。

【井上委員（木曾病院長）】

非常に大事なご指摘だと考えています。それに関してはいろんな形でPR、周知していかなければいけないと思っています。まだ少し情報不足のことでもあると思いますので、いろんな形で、工夫しながらご理解いただけるようにしていきたいと思っています。

先ほど説明したように、急性期の3病棟については、平均在院日数21日という規定があり、それを超えると退院していただかなければいけないという状況があります。

そこで、地域包括ケア病棟になりますと、21日ではなく60日まで入院できることになり、実質は地域包括ケア病棟ができると早く退院するという圧力が非常に減ってくるということがあります。

また、現状としまして入院が長期化しており、病院が21日という規定を守れなくなってきています。そうするとまた非常に大幅な赤字となってしまうということもあります。

そういった経営上の問題や木曾地域の現状として長期の入院が増えてきている、退院に関

しては、地域包括ケア病棟で一括して患者ごとに細かく事情をお聞きしながら退院の方向にもっていくような状況もあり、早く出されるというご意見に対しましては、地域包括ケア病棟になればむしろ減ってくるという風に考えています。

また、現在の入院患者数は 130~140 いけば良い方で、かなり病床が空いており、(空き)病床が少なくてキツキツで入れないという状況は現在では考えられませんので、入院のベッド数に関しては、現在の入院患者数を見ますとむしろもっと沢山入っていただきたいという状況です。

【奥原会長】

木曾町には(町営の診療所が)2所ありますが、木曾南部でも高齢化により後継ぎがないという状況があります。

病院だけを充実させても、在宅医療となればやはりかかりつけ医や医師以外のパラメディカルが必要となるわけですが、この会議をやっているだけでも本当に地域医療構想で在宅で対応できるかということが非常に心配です。

何とか少ない医療資源を有効に活用するような福鶉をしていかなければいけないと思っていますので、皆様に協力をお願いしたいと思います。

【篠崎委員】

南木曾町で開業しています。父の代から在宅を担って、末期がんもかなり診てきました。

41歳で(実家である篠崎医院へ)戻り、まだ頑張ってた時代であり、末期がんの患者が入退院を繰り返して、せめて自宅で死にたいということをサポートしてきました。

介護保険制度が始まった時に、このままだと大変だということで訪問看護ステーションを立ち上げました。しかし、木曾病院や中津川市民病院等大きな病院ですら看護師が確保できないところで、訪問看護ステーションは看護師を2.5人確保しないと認めてもらえません。

南木曾町という小さな町で訪問看護ステーションを経営しても、少し黒字の時はありましたが、赤字の時間が非常に多く、何のためにやっているんだろうと感じていました。また、そういうところなので、民間は絶対に入ってこないだろうということもはっきり分かっていました。去年の4月にそういう条件を満たすことができずに閉鎖に至りました。それから幸いなことに末期がんの依頼はありませんでした。

在宅といってもいろいろ種類があって、肺炎は昔は急性期ということで入院治療が主流でしたが、今では例えば100歳で肺炎になっても急性期病院に入らず自宅で診てほしいという家族の方もおり、そういう患者であれば全く問題なく引き続き診ることができますし、実際そういう方を何人か診ています。

一般的には、歩いてこられない、大変だということでこちらから出向く在宅についてはほとんど何の問題もなく診れますが、非常に手間のかかる患者、例えば家族に吸痰の世話を指導しなければならない場合とか、点滴を24時間持続的に行うとか、例えばせめて1~2週間点滴で診てほしい、それでダメならば何もせずにあきらめるからというケース等をずっとやってきました。

訪問リハビリも行ってきましたが、現在坂下病院がだんだん縮小されていく中で、うちの訪問看護ステーションを閉鎖した後、「ほほえみ」という訪問看護ステーションに最初のうちは20人位の患者をお世話になっていましたが、4、5カ月前当たりからだんだん断られるようになって、現在では10人位になりました。最初の頃は医学的条件で訪問看護を少なくしたり止めるということであれば納得できましたが、「市民病院であるのだから中津川市民を優先する」と言われ心外でした。

医療圏のことを考えてもそうですが、南木曾町は木曾病院まで南木曾駅から35~36km、坂下病院までは11km、市民病院までは24~25kmです。ですから、バスを出していただいても余程のことがないところらに向かうことは多分ないと、利用率が悪いということは聞いてい

ます。

南木曾町は今まで、岐阜県の坂下・市民病院への依存率が高すぎて、木曾病院長さんがおっしゃっていましたが、どちらの病院も入院、検査、外来に関してはウエルカムなんです。

訪問看護に関しては、ありがたいことに木曾病院から来ていただき、結果的に昨年11月12月の2カ月で終わりましたが、来るだけで40～50分掛かってしまいます。もちろん途中の大桑、上松でも訪問を計画していると思いますが、なかなかそんなに上手くは行かず、帰りの時間も入れれば、リハビリの値段が安すぎて全く合わない。無理して来てくれているのは分かっており、幸い2人とも2カ月で終了になったのですが、1人は認知症から廃用症候群、もう一人は木曾病院から脳梗塞のリハビリとして来ていただき、そんなに酷くなかったのですが2カ月くらいで済んだのですが、坂下病院の「ほほえみ」に「新規は今のところ受けられない」と断られ、自分も経営者なのでよくわかりますが、コスト的に大変だと思いつつながら藁をも縋るつもりで木曾病院に話をしたところ、快く来ていただき本当にありがたかったです。

南木曾町は今までは東濃の近くの病院で安心して暮らせたところでしたが、今はそういう状況ではなくなってきたというのが医療側からしみじみ感じています。だからと言って木曾病院にあれこれ頼むのも地域的になかなかしんどいかなと、院長先生にご相談するかと思いますが月に1回だけ行って診てもらうのもどうかと。南木曾町の現状はそのようなところだと思います。

【向井委員】

バスの利用状況については、篠崎委員がおっしゃったとおりでかなり利用率は低いですが、県にも一所懸命やっただけでいいと思いますし、町でもこういったことを今後一緒になってやっていきたいと思っています。とにかくもう少し続けていただく中で、利用率を増やしていきたいと思っています。

昨年末には木曾病院から院長先生や事務部長が地域の説明会に来ていただき、各地域を回って木曾病院の説明をしていただきました。自分自身を含め初めて知ることがたくさんあり、坂下病院も大切な病院であり大事にしていかなければいけないし、しっかりと維持していかなければと思いますが、(木曾病院は)少し違って何といても県立病院であることを認識しました。

町としてももっともっと木曾病院を身近な病院にするための取組をしっかりとやって、もちろん篠崎先生ともいろいろ連携しながら住民の皆様の医療を確保していかなければという思いです。

具体的にどのようなことをするのかについては、少しずつ出来ることを相談させていただきながら、お願いするところはお願いし、町としてやっていくことはやっていきたいと、また、住民の皆様にもそういった理解を深めていっていただきたいと思っています。

4 閉 会 的場副所長